

第3期中央区地域健康福祉計画・地域福祉活動計画の進行管理（令和6年度）

頁	目 次	【評価】
1	中央区地域健康福祉計画の目標・事業達成度の評価基準	今回（前回）
2	【02】赤ちゃん誕生お祝い会＆交流会支援事業	4（4）
3	【04】地域包括ケア推進モデルハウスの設置	3（4）
4	【05】協議体設置と生活支援コーディネーターの配置	4（4）
5	【06】地域の茶の間の推進	3（3）
6	【08】あんしん連絡システム事業	3（3）
7	【09】高齢者等あんしん見守り活動事業	4（4）
8	【10】地域包括支援センター運営事業	4（4）
9	【11】老人憩いの家の活用	3（3）
10	【12】介護予防・日常生活支援総合事業	3（3）
11	【一】認知症地域支えあい推進事業	4（一）
12	【14】障がい児者基幹型相談支援センター事業	3（3）
13	【15】地域活動支援センター事業	3（3）
14	【16】成年後見支援センター事業	3（3）
15	【18】地域子育て支援センター訪問事業	3（3）
16	【21】地域子育て支援拠点の運営	3（3）
17	【22】子ども家庭相談	3（3）
18	【28】みんなでつながるにつこにこ子育て応援事業	4（4）
19	【29】レッツ トライ！糖尿病予防事業	3（3）
20	【32】生活困窮者自立促進支援事業	3（3）
21	【33】子どもの学習・生活支援事業	3（3）
22	【36】避難行動要支援者対策	4（4）
23	【39】区民の安心・安全対策事業	4（3）
24	【41】地域の茶の間支援・助成事業	4（5）
25	【44】ボランティア・市民活動センター運営・育成	4（4）
26	【46】地域福祉推進フォーラム事業	4（4）
27	【47】友愛訪問事業	3（4）
28	【50】コミュニティソーシャルワーク推進事業	4（5）
29	【51】生活福祉資金貸付	4（4）
30	【52】災害ボランティアセンター運営事業	3（4）
31	【一】支え合いのしくみづくり推進事業	4（4）

基本理念

一人ひとりがお互いに支えあい、助けあい、
だれもが安心していきいきと暮らせる中央区

目標1 支えあい、助けあう意識を持った地域づくり

- 1 身近なつながりを広げる ～支えあいのご近所づきあいから～
- 2 ネットワークを広げる ～地域団体や事業者もつながって～
- 3 地域で子どもを育てる ～子育て世帯をまるごと支える～

目標2 つながり、協働し、だれもが活躍できる地域づくり

- 1 だれもが参加できる交流の場をつくる ～多様性が活かされる場～
- 2 地域の資源を活用する ～事業所・施設、関係機関など～

目標3 いつでも気軽に相談できる地域づくり

- 1 身近なつながりで困っている人を支える ～支えあう仕組み～
- 2 情報を伝える方法を工夫する ～紙からインターネットまで～

目標4 健やかでいきいきと暮らせる地域づくり

- 1 一人ひとりが健康づくりに取り組む ～予防と改善を意識～
- 2 地域で健康づくりに取り組む ～みんなでいきいき暮らし～

目標5 安心・安全に暮らせる地域づくり

- 1 地域で見守り・声をかけあう ～日頃のつながりが大切～
- 2 地域防災力を高める ～災害時の避難体制を想定～
- 3 地域防犯力を高める ～警察などと連携して安心・安全を～

事業達成度の評価基準

- 5 : 求められる水準をはるかに上回る業績を収めた。
- 4 : 求められた以上の業績を収めた。
- 3 : 求められた業績を概ね収めた。
- 2 : 求められた水準を下回る業績しか収めることができなかった。
- 1 : 求められた業績をほとんど収めることができなかった。

【No.】事業名	【02】赤ちゃん誕生お祝い会支援&交流会支援事業					
担当課・係	中央区健康福祉課 地域福祉担当					
目標No.	1 2 3					
事業目的	地域との協働で「赤ちゃん誕生お祝い会」や「交流会」を開催することにより、子育てに不安や孤立を感じている子育て世帯と地域がつながるきっかけを作り、安心して子育てできる地域づくりを推進する。 ※令和5年度から、お祝い会でつくったきっかけをもとに、より地域との交流を深めってもらうことを目的とした交流会の開催も支援。					
R6年度の目標	アンケートにおいて赤ちゃん誕生お祝い会及び交流会が今後の地域との交流のきっかけになったと回答した参加者の割合90%以上。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（12月末時点）
お祝い会開催団体数 （申請数） 赤ちゃん参加数 （申込数）	7団体 （10） 100人 （132）	6団体 （8） 59人 （66）	5団体 （6） 87人 （92）	8団体 （8） 112人 （126）	8団体 （8） 96人 （98）	開催済5団体 （8） 49人 （－）
交流会開催団体数 （申請数） 赤ちゃん参加数 （申込数）					5団体 （5） 30人 （43）	開催済4団体 （5） 30人 （－）
アンケート結果	97%	88%	100%	88%	99%	91%
R6年度の 取組と評価	・結果に必ずしも結び付いたわけではないが、より多くの世帯に参加してもらえるよう、チラシの内容を工夫したり、開催の曜日を平日ではなく休日で開催するなど、各開催団体が試行錯誤をしながら取り組んだ。 ・参加者からは「近所の方と交流するきっかけとなってくれしかった」「地域ぐるみでサポートしてもらえることが分かった」「地域の方や保健師の顔を知ることができた」などの好意的な意見が多く聞かれた。					
達成度 【 4 】	・以上から、達成度は4とする。					
R6年度の課題	・より多くの団体から実施してもらえるよう取り組む必要がある。 ・地域とのつながりが希薄な世帯にこそ気軽に参加してもらえるよう、開催内容や開催の時期などについて課題を整理し、より一層改善を図る必要がある。					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	令和6年度中に、ニーズや課題を把握するためのアンケートを実施予定。アンケートの回答を分析し、各開催団体に共有することで、開催内容の工夫や改善につなげ、令和7年度はより多くの世帯から参加してもらえるようにしたい。					

【No.】 事業名	【04】 地域包括ケア推進モデルハウスの設置					
担当課・係	健康福祉課 地域福祉担当					
目標No.	1	2	3	4		
事業目的	支えあいの仕組みづくりを進めるための拠点として、各区にモデルハウスを設置し、常設型地域の茶の間の運営や生活支援、介護予防活動などを実施するとともに、その活動ノウハウについて、地域に普及を図る。					
R6年度の目標	中央区附船町に、中央区モデルハウスとして「しまもち笑顔の家」を設置					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（12月末時点）
モデルハウス設置数	2	2	1	1	1	1
R6年度の 取組と評価	・ 中央区附船町に、中央区モデルハウスとして「しまもち笑顔の家」を設置。中央区の茶の間の見本として、見学などもあり、その活動を示している。 ・ 看護師、保健師及び理学療法士を派遣し、健康相談等を実施した。 ・ 地元の包括との連携だけでなく、中央区のチームオレンジ活動（認知症サポーターがチームを組み、認知症の方や家族に対する生活面の早期からの支援等を行う取り組み）の拠点となるなど、地域の支えあいのモデルとしても展開を広げている。 以上から、達成度は3とする。					
達成度 【 3 】						
R6年度の課題	・ 運営の担い手不足 ・ 地域と連携した一層の活動内容の工夫					
今後の方向性 ・ 継続、変更点が ・ 次年度数値目標 などを具体的に記載	大切な地域資源の一つとして、支え合いのしくみづくり推進員とともに必要なサポートを行い、引き続き、様々な支えあいの拠点となるモデルハウスの存在を目指す。					

【No.】 事業名	【05】 協議体設置と生活支援コーディネーターの配置						
担当課・係	健康福祉課 地域福祉担当						
目標No.	1	2	3	4			
事業目的	地域での支え合い活動を充実していくため、地域の現状把握や課題の抽出、地域団体のネットワーク構築といった役割を担う協議体の設置と生活支援コーディネーターの配置を行い、住民同士の支え合いのしくみづくりを進める。						
R6年度の目標	各圏域（5 圏域）ごとに生活支援コーディネーターを配置						
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（12月末時点）	
配置数	5	5	5	5	5	5	
R6年度の 取組と評価	5 圏域（関屋白新・寄居新潟柳都・宮浦東新潟・鳥屋野上山・山潟）に生活支援コーディネーターを配置。月 1 で、連絡会を開催し、各圏域での取り組みの報告や意見交換などを実施。						
達成度 【 4 】	以上のことから達成度は 4 とする。						
R6年度の課題	支え合いのしくみづくりは、生活支援コーディネーターのみで取り組むことは困難であるため、より一層具体的に協議体参加者（コミュニティ協議会、民間事業者等）と連携していくことが必要。						
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	5 圏域での生活支援コーディネーターの配置を継続						

【No.】事業名	【06】地域の茶の間の推進					
担当課・係	健康福祉課 高齢介護担当（地域福祉担当）					
目標No.	1 2 4					
事業目的	新しい生活様式を踏まえながら、だれもが気軽に集まり交流できる場である地域の茶の間を通じ、住民同士が支え合うしくみづくりを進める。					
R6年度の目標	地域の茶の間の活動を支援、支え合いのしくみづくりとの連携を図る。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（12月末時点）
中央区内週1開催 茶の間数	12	11	11	11	9	9
R6年度の 取組と評価	・週1回開催の茶の間が9か所で開催されている。 ・各日常生活圏域ごとに、支え合いのしくみづくり推進員が中心となって、茶の間同士の活動や考え方などの情報共有を進め、地域活動の推進に努めた。 ・以上から、達成度は3とする。					
達成度 【 3 】						
R6年度の課題	週1回開催の茶の間数が増えないこと。					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	支え合いのしくみづくり推進員との連携を図り、引き続き地域の茶の間の活動を支援していく。					

【No.】事業名	【08】あんしん連絡システム事業					
担当課・係	中央区健康福祉課 高齢介護担当					
目標No.	1 5					
事業目的	在宅のひとり暮らし高齢者等に対し、24時間体制の受信センターに通報することができる装置を貸与し、利用者からの通報による出動や関係者等への連絡を行う。					
R6年度の目標	緊急時の連絡協力員の必要性について説明をし理解を得ることで、システムの利用の推進を目指す。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（12月末時点）
新規	52	28	48	58	49	26
廃止	▲ 97	▲ 66	▲ 75	▲ 98	▲ 84	▲ 57
当年度末台数	444	405	378	338	303	272
台数の内訳 あ：あんしん連絡 福：福祉電話 シ：シルバーホン	あ 400 福 43 シ 1	あ 371 福 34 シ 0	あ 352 福 26 シ 0	あ 315 福 23 シ 0	あ 282 福 21 シ 0	あ 260 福 12 シ 0
R6年度の 取組と評価	事前に協力員の必要性を説明しながらも、やむを得ず見つからない場合もあるが申請者にはご理解をいただきながら利用していただいている。達成度は3とする					
達成度 【 3 】						
R6年度の課題	協力員が不在の方で身寄りもない場合、機器の取り外しの立ち合いで関係者が誰もいない場合や、協力員は基本2名の登録であるが、やむなく1名でも受けている状況もある。					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	ひとり暮らしの高齢者への緊急対応制度として、あんしん連絡システムについて引き続き実施する。					

【No.】事業名	【09】高齢者等あんしん見守り活動事業					
担当課・係	健康福祉課 高齢介護担当					
目標No.	1 5					
事業目的	高齢者の「孤独死」や親族・地域との関わりを持たない「社会的孤立」状態を防ぐため、地域住民主体の見守り体制や民間事業所と連携した見守りネットワークを構築し、安心・安全な地域づくりを進めるもの。					
R6年度の目標	異変の連絡を受けた後、速やかに関係機関と連携して対応を行う。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（12月末時点）
協力事業者の推移 全 市 中央区 ※市内全域も含む	333 97	331 99	331 101	333 102	346 99	347 99
R6年度の 取組と評価	・新聞が数日間分が溜まる、配食弁当が手つかずなどの異変時における関係機関との速やかな連絡がなされている。 ・達成度は4とする。					
達成度 【 4 】						
R6年度の課題	他者との交流を望まれない独居高齢者などへの関わり方が難しい。					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	民間事業所と連携した高齢者のセーフティーネットとして、高齢者等の異変時の対応を引き続き行う。					

【No.】事業名	【10】地域包括支援センター運営事業					
担当課・係	中央区健康福祉課 高齢介護担当					
目標No.	1	2	3			
事業目的	・介護保険法に基づく、地域住民（主に高齢者）の総合相談・支援、虐待防止、権利擁護、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関。 ・主任ケアマネジャー・保健師・社会福祉士が配置され、専門性を生かして相互連携しながら業務にあたっている。					
R6年度の目標	各圏域のケア会議で出された課題について、包括支援センターをはじめとする関係団体と連携し、解決に向けた取り組みを進める。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（12月末時点）
総合相談業務実績 合計（延数）	32,625	29,976	29,629	29,220	29,521	21,458
（内訳）地域・本人家族	17,421	15,453	15,470	15,788	15,768	11,396
居宅介護事業所	5,061	4,726	5,623	5,548	6,024	4,412
その他	10,143	9,797	8,536	7,884	7,729	5,650
R6年度の 取組と評価	・各地域の関係者や関係団体と連携して、業務運営を行っている。困難案件は必要に応じて区や包括で情報共有をはかり、課題解決へ繋げている。 ・複雑な相談対応が増えるなか、各圏域において課題解消に向けた取り組みが進められており、達成度は4とする。					
達成度 【 4 】						
R6年度の課題	支援にかかる時間や人員を要し、対応に苦慮する相談が増えている。					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	各圏域毎の課題の解消に向けて、関係機関と連携して取り組み、高齢者が安心して地域で生活ができるよう支援する。					

【No.】事業名	【11】老人憩の家の活用					
担当課・係	健康福祉課 高齢介護担当					
目標No.	2 4					
事業目的	老人憩の家は、高齢者相互の親睦や教養の向上レクリエーションを行う場として市が設置している施設で、浴室や広間などを備えている。					
R6年度の目標	各施設の状況は異なるため、特徴を活かした取り組みが出来るよう、指定管理者と協力して高齢者の集いの場として維持する。					
実績（人/日）	R1	R2	R3	R4	R5	R6（12月末時点）
なぎさ荘	64	35	34	36	45	49
ひばり荘	34	23	24	27	31	31
沼垂荘	82	70	72	70	73	84
鳥屋野荘	39	31	34	31	30	27
山潟荘	20	16	16	16	17	15
米山荘	51	40	42	39	39	42
R6年度の 取組と評価	新型コロナウイルス感染症の拡大を堺に利用者数が減少し、現在は回復傾向にあるものの、コロナ前の水準と比較すると下回る状況である。 今年度の評価については「3」とする。					
達成度 【 3 】						
R6年度の課題	・ コロナ以降、利用者数の回復が鈍い ・ 施設老朽化への対応					
今後の方向性 ・ 継続、変更点が ・ 次年度数値目標 などを具体的に記載	指定管理者と協力をし、各施設の特徴を活かした取り組みを行うことで利用者の増加につなげていく。					

【No.】事業名	【12】介護予防・日常生活支援総合事業						
担当課・係	健康福祉課・高齢介護担当						
目標No.	1	2	3	4			
事業目的	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、要支援者などを対象にフレイル（虚弱）予防を含めた地域主体による介護予防や生活支援の取り組みが広がるよう支援する。						
R6年度の目標	握力や筋肉量、滑舌などについて機器を使って計測したり、体や生活についてチェックするフレイルチェックを開催する。						
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（12月末時点）	
実施回数	6回	5回	6回	9回	16回	7回	
参加者数	152人	60人	91人	78人	155人	83人	
R6年度の 取組と評価	・事業にくり返し参加することで、より介護予防の推進に効果があるが、参加継続者が増加しない状況となっている。 ・参加者が支援者とともに生活習慣改善の目標設定をする時間を設けたり、啓発チラシを改善して配布したりと、参加者数増加に取り組んでおり、一定の参加者を確保できた。						
達成度 【 3 】	・フレイルチェックをきっかけにサービス利用につながった例などもあり、達成度は3とする。						
R6年度の課題	新規および継続参加者を確保し、活発な活動につなげる必要がある。						
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	感染症対策に十分配慮しながら、区民のフレイル防止のために開催を継続していく。						

【No.】 事業名	認知症地域支えあい推進事業					
担当課・係	健康福祉課・高齢介護担当					
目標No.	1	2	4	5		
事業目的	認知症の人が、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指し、認知症施策を推進する。					
R6年度の目標	・ 地域の支えあい活動を推進し、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりに取り組む。 ・ 地域で出前講座を実施し、認知症の方やその家族を支える地域づくりの必要性の理解を広める。					
実績	R1	R2	R3	R 4	R 5	R6（12月末時点）
実施回数（出前講座）					3回	3回
参加者数					67人	81人
R6年度の 取組と評価	・ 出前講座の実施、中央区職員を対象とした認知症サポーター養成講座の開催（認知症への正しい理解の普及啓発） ・ 中央区キャラバンメイト連絡会への参加、庁内連携会議の開催（関係者間の連携強化）					
達成度 【 4 】	・ 地域におけるはいかい模擬訓練開催などの支援（地域づくり推進） 今年度の評価については「4」とする。					
R6年度の課題	中央区役所庁内で認知症の人への対応が難しいと感じている一方で、職員の認知症サポーター養成講座受講率が低く、職員が受講しやすい講座開催を検討していく。					
今後の方向性 ・ 継続、変更点が ・ 次年度数値目標 などを具体的に記載	認知症の方やその家族を支える地域づくりの必要性の理解がさらに高まるよう、出前講座の実施や、はいかい模擬訓練の開催支援などを継続していく。					

【No.】事業名	【14】障がい児者基幹相談支援センター事業					
担当課・係	障がい福祉係					
目標No.	3					
事業目的	地域における障がい児者相談支援の中核的な役割を担う基幹相談支援センターを設置し、相談支援体制の充実を図る。					
R6年度の目標	ワンストップ相談、「傾聴」を第一に相談受付を行い、相談者の状況に応じて、訪問支援・同行支援を行うなど伴走支援を心がける。 関係機関と連携した支援がいつでも行えるよう、定期的な情報共有を行う。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（4月～12月）
支援件数	5,945	5,862	5,818	7,108	5,542	4728
R6年度の 取組と評価	相談業務のほか、相談支援事業所等を対象とした研修会や他機関との連携会議を定期的で開催し、相談支援体制の強化を図った。 区障がい者地域自立支援協議会こども連絡会では、幼児期の障がい児及びその家族をサポートする機関(こども園、児童発達支援事業所、計画相談事業所など)同士の相互理解・顔が見える関係づくり・連携強化を図ることを目的に中央区内では初となる合同研修会を開催した。また、児童を担当する計画相談事業所相談員が関係機関の役割を熟知したうえで効果的な連携を行えることを目的に研修会を企画した。 同協議会PR部では、多職種連携会議の他、8050問題の実態調査で地域包括支援センター等の高齢分野との連携、訪問看護との連携を含め、それぞれの問題把握、介入に取り組んだ。 以上より、達成度は3とする。					
達成度 【 3 】						
R6年度の課題	相談支援件数は横ばいだが、職員4名で多種多様な相談に対して相談支援業務を行っている。また、細やかな対応が求められる中、職員の異動もあることから、職員の業務内容の整理、相談支援業務スキルの向上が課題としてあげられる。					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	中央区には計画相談支援事業所や福祉サービス事業所等、数多く新設されている。福祉サービスが増えることは、選択の幅が広がり、ご利用者にとって良い半面、新しい事業所のスキルやサービスの質が問われる。スキルアップや人材育成について、障がい福祉係と基幹センターとで研修会等を積極的に企画していく。					

【No.】事業名	【15】地域活動支援センター事業					
担当課・係	障がい福祉係					
目標No.	2・3					
事業目的	障害者総合支援法により定められた、障がいによって働くことが困難な障がい者の日中活動をサポートする事業所に補助金を交付し、障がい者の自立と社会参加活動を支援する。					
R6年度の目標	引き続き地域活動支援センターへの視察を行うとともに、毎年行う運営検査を通して助言・指導を行いながら施設の質を高めていく。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（12月末時点）
地域活動支援センター数（中央区）	I型：2 II型：2 III型：7	I型：2 II型：1 III型：7	I型：2 II型：1 III型：8	I型：2 II型：1 III型：7	I型：2 II型：1 III型：7	I型：1 II型：1 III型：7
登録者数	I型：159 II型：102 III型：303	I型：192 II型：51 III型：241	I型：139 II型：47 III型：267	I型：134 II型：44 III型：206	I型：134 II型：42 III型：232	I型：89 II型：41 III型：228
R6年度の取組と評価	R6年度は、地域活動支援センターの視察を運営検査に合わせて2カ所訪問し、事業所に運営に対する助言・指導を行うとともに、視察を通して地域活動支援センターの役割や支援内容への理解を深めた。また、訪問を行わなかった事業所に対しても書面による検査を実施し、補助金申請等の手続きがスムーズに行われるよう助言・指導を行った。					
達成度 【 3 】	以上のことから達成度は3とする。					
R6年度の課題	業務担当職員は、運営検査と視察を同時に行い、運営に対する助言・指導を行うとともに、視察を通して地域活動支援センターの業務を把握することができているが、担当職員以外も適切に助言・指導ができる体制を作る必要がある。					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	中央区内の地域活動支援センターは9施設あり、他区に比べて充実している。今後も、継続して視察・運営検査を行い、施設に対し助言・指導を行うことで施設の質を高めていくほか、担当職員以外の業務に対する理解度の向上を図る。					

【No.】事業名	【16】成年後見支援センター事業					
担当課・係	障がい福祉係・高齢介護担当					
目標No.	3					
事業目的	市民からの相談に対応するとともに、成年後見制度の普及や市民後見人の養成・活動支援を行い、成年後見制度による支援を必要とする方々への権利擁護を推進する。					
R6年度の目標	引き続き支援を必要とする方の権利擁護のために、センターにおいて相談、助言を遂行する。区としても、窓口来庁者や関係機関等に成年後見制度の周知を図るとともに、身寄りが全くいない等で成年後見申立が困難な方については、市長申立てにより成年後見制度の利用につなげるなど支援をしていく。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（12月末時点）
成年後見センター 相談数（延数）	1,001	645	687	976	1,238	1,008
内新規相談件数 （延数）	351	211	352	480	511	427
R6年度の 取組と評価	新型コロナウイルスの感染拡大を受け、成年後見支援センターへの相談が減少していたが、令和4年度以降の相談件数は、増加傾向である。また、身寄りがいない高齢者や障がい者など、成年後見申立てが困難な方の市長申立の相談が増えており、前後期合わせて17件申請があり適切に対応した。					
達成度 【 3 】	以上のことから達成度は3とする。					
R6年度の課題	高齢化の進展にともない、潜在的に成年後見人を必要としている方はまだ多くいると見られ、支援の場につないでいくことが課題としてあげられる。					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	高齢化の進展にともない、今後ますます成年後見制度の需要は高まると思われる。対象者と関わりのある介護事業所や障がい事業所に機会をとらえて広く周知していく。また、身寄りがいないために成年後見の申立が困難な方について、関係者と協力しながら市長申立の手続きを進めていく。					

【No.】事業名	【18】地域子育て支援センター訪問事業					
担当課・係	中央区健康福祉課 児童福祉係					
目標No.	1 3					
事業目的	妊産婦を対象に、これから始まる赤ちゃんとの生活を応援するマタニティプログラムを地域子育て支援センターで開催し、子育てに対する不安の軽減を図る。					
R6年度の目標	マタニティプログラム開催 6回					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（12月末時点）
マタニティプログラム 開催数（回）	8	6	5	8	8	6
R6年度の 取組と評価	・妊産婦向けの講座を八千代子育て支援センターで3回、鳥屋野子育て支援センターで3回開催し、妊産婦の不安軽減や仲間づくりの場の提供を行った。 ・以上のことから達成度は3とする。					
達成度 【 3 】						
R6年度の課題	出産前の妊婦やその家族のニーズに応じた講座内容の充実が必要である。					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	参加者からの意見等を参考に内容の改善を図り、引き続き出産前の妊婦やその家族の不安の軽減、仲間作りの場を提供し、出産前から地域子育て支援センターを利用する機会を創出する。					

【No.】事業名	【21】地域子育て支援拠点の運営					
担当課・係	中央区健康福祉課 児童福祉係・こども支援係					
目標No.	2 3					
事業目的	家庭や地域における子育て環境の変化や、子育て中の親の孤独感や不安感の増大などに対応するため、地域子育て支援センター（市立2施設・私立6施設）、子育て応援ひろば等で乳幼児と保護者の相互交流、子育てについての相談、情報の提供、助言などの支援を行う。					
R6年度の目標	定例会議（中央区子育て支援センター等連絡会議）を開催し、現状や課題等の情報交換や研修会等を行い、各センター間のさらなる連携とサービスの向上を図る。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（12月末時点）
地域子育て支援センター [8施設分]利用者（人）	44,177	42,536	35,853	47,066	56,747	43,883
子育て応援ひろば 利用者（人）	24,437	9,732	9,782	12,026	15,268	10,896
新潟市児童センター 利用者（人）	20,895	9,369	11,317	14,232	16,543	14,428
R6年度の 取組と評価	・中央区内の地域子育て支援センター間の相互理解と連携を深めるとともに、各施設のサービス向上を図るため、定例会議（中央区子育て支援センター等連絡会議）を2回開催し、各施設の運営状況や課題等の情報共有、保護者支援についての意見交換、子育て支援に関する研修会を行った。					
達成度 【 3 】	・以上のことから達成度は3とする。					
R6年度の課題	利用者が安心して過ごせる施設側の配慮や工夫を行うとともに、子育てについての相談、情報の提供、助言などの子育て支援機能のさらなる向上が必要である。					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	子育て中の親の孤独感や不安感等に寄り添った相談対応や親子の仲間づくりの場の提供などを行い、子育て支援機能のさらなる充実を図る。					

【No.】事業名	【22】子ども家庭相談					
担当課・係	中央区健康福祉課 こども支援係					
目標No.	1 3					
事業目的	令和4年度より各区健康福祉課内に配置された虐待対策担当に、新たに専門の相談員を配置し、子ども家庭総合支援拠点として体制を強化した。また、令和6年度からは、各区健康福祉課内に子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点との一体的な相談支援体制をめざして、こども家庭センターが設置された。専門の相談員を主体に関連機関への積極的な働きかけや、要保護児童に対するアウトリーチの一環として、積極的に学校や保育園等に訪問調査を行い、虐待の予防や早期発見に努める。児童虐待相談に対しては、これまでと同様に関係機関等と研修等を含め連携体制を維持または強化して、要保護児童等への支援を行う。					
R6年度の目標	児童虐待防止及び児童福祉に係る研修や啓発活動を年10回開催する。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6
実施回数	11	10	13	10	10	10
R6年度の 取組と評価	・関係機関職員等を対象とした研修・講義を8回実施した。 ・学生実習生に児童虐待への支援について研修・講義を2回実施した。 ・目標回数を達成しており、達成度は3とする。					
達成度 【 3 】						
R6年度の課題	虐待の発生予防のため、虐待を通じて支援が必要な児童や家庭を早期に把握し、定期的に見守る体制を確保して、その体制を維持することが課題。					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	今後も、関係機関との緊密なネットワークを継続させながら、支援が必要な児童等を、早期に把握する体制を強化するとともに、定期的に見守る体制を確保し、子育て世帯への支援を行なう。					

【No.】 事業名	【28】 みんなでつながるにっこにこ子育て応援事業					
担当課・係	健康増進係					
目標No.	2 3					
事業目的	・ 妊娠期から子育て期に安心して子育てができる体制づくりと、保健師・助産師等の専門職による切れ目ない支援を地域の関係機関と連携・協働して行う。 ・ 保健師・助産師などの専門職に気軽に相談でき、仲間づくりができる場の提供。 ・ 子どもの成長発達や関わり方を学ぶ子育て講座の開催					
R6年度の目標	○育カフェ 参加後の気持ちの変化 不安が軽減した人が90%以上 ○10か月育ちの講座 児との関わり方がわかった人が90%以上					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（12月末時点）
妊カフェ参加者数 【アンケート結果】	165人 ※3月中止	※6月再開 リモートのみ 58人 【90.2%】	※会場・リモート 114人 【96.0%】	妊婦188人 【97.5%】 夫90人 【97.8%】	妊婦230人 【100%】 夫196人 【96.6%】	市の安産教室 として実施
育カフェ参加者数 【アンケート結果】	364人 ※3月中止	※6月再開 リモート・会場 136人 【91.9%】	※会場・リモート 119人 【96.6%】	236人 【96.6%】	136人 【100%】	133人 【100%】
子育て講座 （10か月育ちの講座） 【アンケート結果】	296人 ※3月中止	※5月再開 リモートのみ 93人 【100%】	※会場・リモート 204人 【99.0%】	180人 【100%】	263人 【100%】	189人 【100%】
R6年度の 取組と評価	R6から「育カフェ」は子育て支援センター等を開催会場に加え実施した。アンケートから「同じ月齢の子を持つ親同士、同じ悩みを抱えていることがわかり安心した、仲間づくりができそう」、「身近な相談先があることを知れてよかった」「支援センターがこんなにたくさんあることを知れてよかった」等の感想があり、母親の育児不安の軽減だけでなく、行き場の少ない低月齢の親子が安心していける場の認知にもつながったことがうかがえる。「子育て講座」のアンケート結果においても、目標は達成しているため達成度は4とする。					
達成度 【 4 】						
R6年度の課題	中央区では子育て世帯の核家族の割合が高く転入者も多いことから、妊娠出産、子育てが安心してできるよう、引き続き保護者の孤立感解消や負担軽減を図る必要がある。					
今後の方向性 ・ 継続、変更点 ・ 次年度数値目標 などを具体的に記載	・ 妊娠期から子育て期に安心して子育てができるよう、行き場の少ない低月齢の親子の通いの場の周知を図るため中央区内の子育て支援センター等の一覧マップを作成し新生児訪問や母子保健事業等で配布する。また「10か月育ちの講座」の参加者に配布していた冊子をより多くの保護者に配布できるようチラシに編集し幼児健診等の事業において配布する。					

【No.】事業名	【29】レッツ トライ！糖尿病予防事業					
担当課・係	健康増進係					
目標No.	4					
事業目的	区の健康課題の1つである糖尿病について、多くの区民に関心を持ってもらい、糖尿病の正しい知識や予防方法の啓発に取り組む。特に健診受診と糖尿病予防につながる生活習慣改善について啓発を行う。					
R6年度の目標	HbA1cの認知度向上のため、地域へ専門職を派遣した健康講座の開催をする。また関係機関と連携し、特に若い世代や新しい層へ健診受診と糖尿病予防の啓発を行う。 *HbA1cが糖尿病予防のために必要な項目と理解できた人の割合：90%以上					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（12月末時点）
11月糖尿病イベント	300人超	119人超 (82人)	イベント 未開催	137人	100人	118人
特定健康診査受診率 (%)	35.5	32.9	34.4	34.45	35.59	14.93
講座アンケート結果 H b A 1 c の理解度	—	1	1	94%	94%	100%
R6年度の 取組と評価	・若い世代からの糖尿病予防の一環として、大人の食事から離乳食を取り分ける工夫とともに中央区の健康課題である糖尿病について説明。（9回） ・市内小・中学校の保護者向けに、健診受診と糖尿病予防に関するリーフレットや啓発グッズを配布、実施にあたり小学校校長会や小中学校の養護教諭に区の健康課題を説明、学校ごとの取組を実施。（小学校20校6年生、中学校12校） ・商店街組合理事会を通じ、加盟店に特定健診受診勧奨のリーフレットを配布、従業員への周知を依頼。（317店舗） ・コミ協等地域の団体に歯科衛生等専門職を派遣した講座を実施。（5回） ・糖尿病予防セミナーや各団体に出向いた際に健診受診方法や健診結果の確認、生活習慣改善の講話実施。					
達成度 【 3 】	以上のことから達成度は3とする。					
R6年度の課題	基本健康診査の結果、HbA1c値が改善傾向にあることから糖尿病予防から広く生活習慣病予防に焦点を当てた取り組みが必要。また、引き続き定期的な健診受診の大切さ、受診方法について、学校・地域の各機関と幅広く連携し、継続的な周知啓発が必要。					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	・今後は全市の健康寿命延伸引に向けた取り組みとして、引き続き学校・商工会関連機関等の関係機関と連携し、健診受診勧奨と生活習慣の改善についての啓発を行う。また、新規国保加入者や連続未受診者等、対象者に合わせた勧奨を行うことで健診受診率向上に努める。 ・健康講座も糖尿病予防から生活習慣の改善のための講座として内容を変更し開催。					

【No.】事業名	【32】生活困窮者自立促進支援事業					
担当課・係	中央区保護課 保護第3係					
目標No.	3					
事業目的	生活困窮者が困窮状態から早期に脱却することを支援するため、本人の状態に応じた包括的な相談支援を実施するとともに、多様な就労支援や生活支援事業を実施することで様々な問題を抱えた支援対象者の自立を促進するもの。					
R6年度の目標	困窮者本人、その親族や知人、民生委員など地域の方々、携わった医療や介護等の機関等と連携し、来所や訪問による面談を実施し、支援制度を適用、あるいは生活保護をはじめとする適切な福祉制度や法律相談等に繋げていく。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（12月末時点）
一時生活支援事業	66件	59件	56件	64件	63件	45件
住居確保給付金	7件	161件	73件	60件	26件	16件
R6年度の 取組と評価	R6年度の「一時生活支援」「住居確保給付金」については上記のとおりである。住居確保給付金については、新規申請件数は減少してはいるものの、延長・再延長などで継続して支援を受けるケースがある。期間の延長、その延長ごとの要件の変更があり、担当会計年度任用職員2名体制で、迅速かつ的確に給付決定に繋いだことから、達成度は3とする。					
達成度 【 3 】						
R6年度の課題	困窮者本人、その親族や知人、民生委員など地域の方々、携わった医療や介護等の機関等と連携し、来所や訪問による面談を実施し、支援制度を適用、あるいは生活保護をはじめとする適切な福祉制度や法律相談等に繋げていく必要がある。					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	今後も、相談者の状況に応じた包括的な相談支援を実施するとともに、多様な支援事業を実施することで、様々な問題を抱えた支援対象者の自立を促進する。					

【No.】事業名	【33】子どもの学習・生活支援事業					
担当課・係	中央区保護課 保護第4係					
目標No.	1・3					
事業目的	生活保護世帯を含む生活困窮世帯の、主に中学生の学習習慣を定着させるとともに、子どもの将来の自立を後押しすることにより世帯の自立を支援する。					
R6年度の目標	<子ども勉強会の開催> ・「子ども勉強会」の参加登録者に対する勉強会への出席率 50% <学習支援員による個別相談実施> ・学習支援員による個別相談（家庭訪問含む）実施回数 20回					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（12月末時点）
参加登録者に対する参加生徒の割合(%)	48	62	53	50	50	65
個別相談実施回数（回）	14	6	16	29	25	16
R6年度の取組と評価	毎週末に「子ども勉強会」を引き続き実施し、参加生徒の学習習慣の定着を推進した。感染症予防に配慮しつつ安全な学習環境を整えるとともに、学習機会の喪失につながらない様、関係者間で調整し中央区外からも生徒の受け入れを行った。 学習支援員による個別相談を実施し、継続的な参加や進学に繋がるよう支援を行った。 以上から、達成度は3とする。					
達成度【 3 】						
R6年度の課題	生活保護世帯等への家庭訪問や関係課との連携を通じ、対象世帯への参加勧奨を進めていく。					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	引き続き勉強会を実施し、参加生徒の学習習慣の定着と登録世帯及び子どもの自立助長を図るとともに、参加希望者の取りこぼしが生じない様、関係者間で調整を行い学習機会を確保していく。					

【No.】事業名	【36】避難行動要支援者対策					
担当課・係	中央区健康福祉課 地域福祉担当 中央区総務課 安心安全グループ					
目標No.	1 5					
事業目的	心身の状態などにより災害時に自ら避難することが困難な方（要支援者）の名簿を作成し、地域の自主防災組織などの支援者や、消防機関、警察署、民生委員などに提供することで、災害時における地域での共助を支援する。					
R6年度の目標	- 必要な人に支援がいきわたるよう、関係機関と連携して、制度の周知を図る。 - 要支援者と支援者のつなぎ役として制度を支える民生委員の理解を深める。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6
中央区名簿登載者数	4,366人	4,110人	3,949人	3,664人	3,445人	3,186人
中央区自主防災組織結成率（世帯比％）	85.8％	85.0％	86.8％	89.2％	90.0％	90.9％
R6年度の取組と評価	- 防災意識の高まりから、当制度への関心も高まっており、問い合わせや窓口での申請受付が増える中、年二回（10月、2月）の名簿更新を着実に実施し、支援者等への提供を行った。 - 名簿の更新や、同意のための訪問依頼時などの折々に、民生委員児童委員協議会会長会での丁寧な説明を行うとともに、配布資料の改善を重ね、民生委員へのわかりやすい情報提供が行えた。 - 個別避難計画の作成にかかる相談を受けたり、防災訓練などを通じて地域への理解や必要性の周知を図った。					
達成度【 4 】						
R6年度の課題	- 施設に入所する要支援者の増加により、非在宅者が増え、現況を正確に把握できなくなっている。 - 名簿登載後、災害時の避難支援について、要支援者を支援するための関係づくりや支援者の不足、高齢化などにより支援体制が困難な地域がある。					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	- 必要な人に支援がいきわたるよう、引き続き関係機関と連携して、制度の周知を図る。 - 地域が抱える課題解消に向け、成功事例を紹介するなど研修会の開催を検討。					

【No.】事業名	【39】区民の安心・安全対策事業					
担当課・係	中央区総務課 安心安全グループ					
目標No.	5					
事業目的	中央区は8区の中で最も人口が多く、犯罪発生件数も多い。中でも特殊詐欺については、発生件数、被害額など全区の中でも多い状況となっている。警察署等との街頭啓発活動のほか、協力事業者による高齢者宅への訪問啓発を実施することにより、防犯意識の向上を図る。					
R6年度の目標	訪問啓発人数2,500人を目指す。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（見込み）
訪問啓発件数 （目標件数）	2,000人 （----）	2,000人 （2,000）	2,000人 （2,500）	2,500人 （2,500）	2,500人 （2,500）	2,500人 （2,500）
R6年度の 取組と評価	街頭啓発だけでなく、協力事業者による訪問啓発も実施することにより、外出頻度の少ない高齢者層にも啓発を実施し、防犯意識の向上を図っている。啓発は年度末まで継続し、目標は達成できる見込みとなっている（令和6年12月末時点）。今年度は被害件数の多いオレオレ詐欺や新しい手口のSNS型投資詐欺やロマンス詐欺などの防犯啓発活動をチラシ配布を通じて実施。被害件数は昨年度に比べ減少していることから、達成度は4とする。					
達成度 【 4 】						
R6年度の課題	・昨年度から被害件数は減少しているが、特殊詐欺の傾向を研究し、啓発活動などを工夫しながら実施する必要がある。 ・通信機器からの詐欺であるため高齢者だけでなく若年層への啓発回数や場所、効果的な方法を検討する必要がある。					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	防災・防犯・交通安全対策を一体的かつ総合的に取り組むことで、安心安全な地域づくりを図っていく。					

【No.】事業名	【41】地域の茶の間支援・助成事業					
担当課・係	中央区社会福祉協議会					
目標No.	1 2 4					
事業目的	身近な地域で気軽に集まり交流する居場所に対して助成し支援する。					
R6年度の目標	・身近な地域で気軽に集まり交流する居場所に対して助成し支援する。 ・立ち上げの支援や継続の相談に丁寧に対応する。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（見込み）
週1助成・モデルハウス	14	13	12	11	10	10
月2助成	5	2	2	0	0	2
月1助成	52	53	50	48	51	55
小規模（区社協独自）	—	—	—	11	15	19
合計	71	68	64	70	76	86
R6年度の 取組と評価	・地域の茶の間の立ち上げや継続の支援について、支え合いのしくみづくり推進員や地域包括支援センターと連携しながら取り組んだ。 ・今年度は、昨年度と比較して新規のお茶の間が数多く立ち上がり、居場所の必要性が地域に浸透していると実感した。 ・茶の間継続のため、実施内容で困っているという相談を受けた際には、他の茶の間が行っている内容を共有したり、必要に応じて福祉専門職の出前講座等の案内を行った。					
達成度 【 4 】	・以上のことから達成度は4とする。					
R6年度の課題	・高齢化による担い手不足や参加者の減少により、運営に苦労している団体が散見される。そういった団体に対して、適切な継続支援を実施していくことが必要である。 ・住民同士のつながりや助け合いのある地域を広げていくために、居場所がもたらす効果を多世代に伝えていく必要がある。					
今後の方向性	・引き続き、各機関と連携しながら、立ち上げの相談や継続の支援を丁寧に行っていく。 ・地域のイベントや集会に参加した際には、積極的に「居場所の必要性や効果」を伝えていく。					

【No.】事業名	【44】 ボランティア・市民活動センター運営・育成					
担当課・係	中央区社会福祉協議会					
目標No.	1 2					
事業目的	ボランティア・市民活動、企業による地域貢献活動の相談を受け付けるだけでなく、人材育成としての各種ボランティア講座の開催や情報発信を行う。					
R6年度の目標	地域団体・企業とつながり、広く市民に関心と呼べるような時世にあった講座を開催する。 今年度は、多様性への気づきと多様な生き方を知り、相互理解を深める取り組みとして、小学生向けのヒューマンライブラリーを開催する。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6
参加者数				9	20	13
R6年度の 取組と評価	・小学生向けのヒューマンライブラリーは県内で初めての試みであり、参加者が集まるか心配をしていたが、定員15名に対し13名の参加となった。 ・参加児童が、様々な「本」役との出会いの中で、その人の物語や生き様に触れ、自分との同じや違いに気づくことで、相手に対するイメージの変化を感じ取ることができた。 ・アンケートにおいても、参加する前と後では、「本」役に対しての理解や興味が高くなったと参加者全員から回答があった。					
達成度 【 4 】	・以上のことから、達成度は4とする。					
R6年度の課題	ヒューマンライブラリーという言葉だけでは、活動が想像しにくい部分もあるため、R6年度の実施の様子をまとめた動画を活用した広報・周知の展開が必要である。					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	次年度は「本」役となる方を増やすなどして、更に多様な人との出会いのきっかけにつなげる。					

【No.】事業名	【46】地域福祉推進フォーラム事業					
担当課・係	中央区社会福祉協議会					
目標No.	1 2 3 4 5					
事業目的	時勢にあったテーマを中心とした福祉に関する講演・パネルディスカッション等を行う。					
R6年度の目標	中央区役所と共催で、区民向けに研修会を開催する。近年は、少子高齢化に伴い加速する地域の高齢化、担い手不足、中高年層の引きこもり、ご近所付き合いの希薄化など地域課題の多様化、複雑化が進んでいる。一方で、そのような地域課題に対して、住民同士が協力して、見守り活動や居場所づくりなどの取り組みを行っている団体が数多くある。 本研修会では、区内の地域団体による活動を共有し、誰もが住みなれた地域で安心して暮らし続けることができる地域づくりの発展に寄与することを目的として開催する。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6
参加者数	334	—	123	184 うちオンライン 37	114 うちオンライン 17	3月1日 開催
R6年度の 取組と評価	・3/1（土）13：30～15：30 新潟市民プラザにて開催予定 「地域福祉活動の実践発表」として、下記の3団体より実践報告を行う。 ○コーディネーター 新潟医療福祉大学 心理・福祉学部 社会福祉学科 教授 青木茂氏 ①長嶺地域コミュニティ協議会「長嶺コミ協買い物支援移動スーパーについて」 ②みんなの食堂いこいの家「地域食堂を通じた地域への貢献について」 ③パストラルハイム駅南自治会「マンション自治会の取り組みについて」 ・開催はこれからであるが、区内の先進的な取り組み内容を紹介できるため、達成度は4とする。					
達成度 【 4 】						
R6年度の課題	開催後、参加人数やアンケートの結果等により検討する。					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	引き続き、地域福祉活動の活発化のために、各団体や個人が取り組みやすいような、先駆的な実践発表を行うことを中心とした講演、シンポジウム等を行う。					

【No.】事業名	【47】友愛訪問事業					
担当課・係	中央区社会福祉協議会					
目標No.	1 3 5					
事業目的	・ひとり暮らし高齢者等見守りの必要な世帯を定期的（月に1回）に訪問・声かけをし、安否確認や孤独感の解消を図る。 ・訪問のため地域のボランティアの協力を仰ぎ、安心・安全な地域づくりを進める。					
R6年度の目標	・未実施地区 1減 ・研修会アンケート満足度 70%					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6
実施団体	37	37	35	35	34	33
訪問世帯数（7月）	2,334	2,242	2,162	2,089	1,970	1,852
おせち配食数	2,446	2,330	2,237	2,088	1,992	1,769
R6年度の 取組と評価	・コロナに加えインフルエンザ流行の中にあって感染予防に努めながら声かけ訪問が行われており、高齢者世帯の安心感につながっている。 ・実施団体については実施団体代表が亡くなり、1団体減となる。 ・おせち料理配食事業については諸物価高騰、友愛訪問事業を安定的に継続するため、今年度より実施しない。今年度限りとして事業廃止の周知とあいさつのため「歳末特別友愛訪問」として12月の友愛訪問時に品物を配付した。					
達成度 【 3 】	・研修会は集合形式で2月に開催予定。 ・以上のことから達成度は3とする。					
R6年度の課題	・地区民児協で取り組んでいない地区が3地区あり、コミ協や自治会町内会で取り組んでいるが、どうしても空白地域がある。また自治会町内会は、代表者が高齢化しており、後継者もなく継続できないところが出てきている。					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	・高齢者に定期的に訪問することは安否確認や孤独感の解消だけではなく、猛暑時や大雪、災害時の声かけに有効であると思われるので実施団体にも更に理解を深めていただき、継続していきたい。 ・空白地域については、機会をとらえて協力を検討していただくよう働きかけていく。					

【No.】事業名	【50】コミュニティソーシャルワーク推進事業					
担当課・係	中央区社会福祉協議会					
目標No.	1 2 3					
事業目的	生活上の困りごとを抱えた方への支援、安心して暮らせる地域づくりや住民の組織化について、住民や関係機関と協力・連携しながら推進する。					
R6年度の目標	あらゆる相談に応じる窓口として支援に取り組み、団体の立上げを支援、ネットワーク化を進める。喫緊の課題に応じたセミナー・講座を企画、開催する。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（12月末時点）
相談受付票集計数	594	1,344	887	1071	1,151	852
R6年度の 取組と評価	・複合的な課題を抱える世帯が多く、関係機関と連携しながら支援を行った。 ・多文化共生推進のため、留学生が多く在籍する大学で行われた防災訓練への協力や、地域住民や学校職員を対象としたやさしい日本語講座を実施した。 ・第1層支え合いのしくみづくり推進員と連携しマンション課題に関する情報交換会を実施したり、他団体と共同し不要となった家電を提供する家電バンク事業を開始したり、新規の取り組みを開始した。					
達成度 【 4 】	・以上のことから達成度は4とする。					
R6年度の課題	社会の変容により生活課題やニーズが複雑・多様化し、より幅広く柔軟な視点を持って課題解決を図る必要がある。					
今後の方向性	引き続き、生活上の困りごとを抱えた方への個別支援、安心して暮らせる地域づくりや住民の組織化などの地域支援について、住民や関係機関と協力・連携しながら取り組む。 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載					

【No.】事業名	【51】生活福祉資金貸付					
担当課・係	中央区社会福祉協議会					
目標No.	3					
事業目的	他の貸付制度が利用できない低所得世帯や障がい者世帯、高齢者世帯に対し、資金の貸付と必要な相談支援により、経済的自立と安定した生活が送れるようにすることを目的とする。					
R6年度の目標	生活福祉資金の貸付のみならず、生活困窮者自立支援制度を活用することでより効果的に相談者の自立の促進を図る。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6（12月末時点）
相談件数	316	3,842	3,388	950	569	974
決定件数	11	1,161	1,434	293	16	3
R6年度の 取組と評価	・貸付対象者だけではなく、対象にならなかった相談者に対しても関係機関につなぐ、連携して支援する等の対応をした。 ・コロナ特例のフォローアップについて、対象者に連絡、もしくは訪問し、現在の生活状況について聞き取りを行った。現在も困窮している世帯には償還免除や猶予の申請の援助を行った。また、滞納している世帯へは生活状況を聞き取り、償還に対する相談に応じた。 ・以上のことから達成度は4とする。					
達成度 【 4 】						
R6年度の課題	・貸付対象外の世帯に対して食糧支援等、できる限りの情報提供を行う。必要に応じて同行する。 ・貸付決定後、償還が滞ってしまう借受人に対し、生活状況の聞き取りや支援を丁寧に行う。					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	・引き続き、関係機関と連携しながら相談支援を行う。 ・償還が滞ってしまっている借受人に対して、架電、訪問等でアプローチを進めていく。					

【No.】事業名	【53】災害ボランティアセンター運営事業					
担当課・係	中央区社会福祉協議会					
目標No.	1 5					
事業目的	災害時における災害ボランティアセンターの設置運営及び災害ボランティア活動を円滑に行う体制づくりを目指す。					
R6年度の目標	区民向けに研修会を開催し、災害発生時の対応及び平常時からの協働・連携について理解を深めてもらう。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6
災害ボランティアセンター研修会の開催	0回	1回	0回	1回	1回	0回
R6年度の 取組と評価	・能登半島地震における新潟市西区での災害ボランティアセンター立ち上げを踏まえて、実際に中央区内での設置候補箇所について中央区役所総務課と確認を行った。 ・これまでの災害ボランティアセンター設置マニュアルについても、実際の災害ボランティアセンター立ち上げの経験を加味した内容で修正を進めている。					
達成度 【 3 】	・研修会については、令和6年度は実施せずに見直したマニュアルの内容をもとに令和7年度の取り組みとした。 ・以上のことから、達成度は3とする。					
R6年度の課題	災害ボランティアセンターに関する研修は座学の学びの機会だけでなく、実際の動きを想定したシュミレーションを含んだ学びの機会も必要である。					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	次年度は災害ボランティアセンター設置候補地のいずれかの場所で実際の立ち上げに向けたシュミレーションを行う。					

【No.】 事業名	支え合いのしくみづくり推進事業					
担当課・係	中央区社会福祉協議会					
目標No.	1	2	3	4		
事業目的	高齢者等が安心して暮らし続けられる地域をつくっていくため、生活支援体制の充実および社会参加の推進を一体的に図ることを目的に、生活支援・介護予防になる多様な団体および中央区と連携しながら、支え合いのしくみづくりを行う。					
R6年度の目標	マンション自治会に向けた情報交換会を開催し、マンション自治会が抱える悩みや課題を明確化する。					
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6
参加者数						31
R6年度の 取組と評価	・今年度の新たな取り組みとして、マンション自治会の課題解決に向けた情報交換会を開催したが、参加者からは「貴重な機会であるため、是非とも定期的に開催してほしい」という声を数多く頂いた。 ・中央区内のマンション自治会数は約85件と認識しているが、情報交換会への参加自治会数は約20自治会であったため、継続的に取り組みを進めていきながら、さらに多くのマンション自治会への支援を行いたい。					
達成度 【 4 】	・以上のことから、達成度は4とする。					
R6年度の課題	・情報交換会のアンケート結果から、「テーマを絞ってほしい」という声があった。					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	・引き続きマンション自治会の課題解決に向けた研修会や情報交換会を開催する。 ・行政や関係機関と連携し、多様な視点から課題解決の取り組みを計画する。					